

かんにゆうそう

陥入爪(まき爪)

手術について



陥入爪とは、爪の外側部分が皮膚に食い込み炎症を起こしている状態です。炎症が進むと、細菌感染を起こし膿がたまったり痛みが強くなったりしてなかなか治りません。

はじめに

陥入爪の治療法として、食い込んでいる部分の爪の角を切除する方法(爪切り)や、抗生物質などで感染を抑える方法があります。

しかし、爪の細胞は爪の根本(爪母)にあるため、食い込んでいる部分の爪はまた伸びてきます。結果として再発するため、根治的な治療法とは言えません。

その他の治療法として、食い込んでいる部分の爪の角を足の指先の皮膚上に乗る程度まで伸ばす方法がありますが、しばらく痛みを伴います。

当院でおこなう小手術

当院では、この陥入爪に対して食い込んでいる部分の爪(約3-5mm幅)のみを切除すると同時に、再発(再び爪が生えてくい込むこと)しないようにその部分だけ爪が生えて来ないようにする(爪母の部分を処置する)小手術をおこなっています。

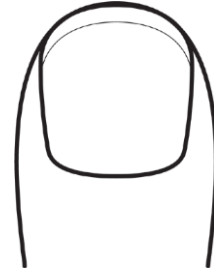
〈特徴〉

- ・ 簡単で術後の痛みが非常に少ない
- ・ 再発率(約2%)が低い

〈準備物〉

手術後に創部に包帯をするため、先が開いた履物(サンダルなど)の準備をお勧めします。

その他の注意点は、特にありません。

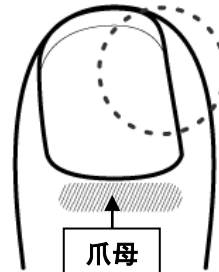


上から



正面

正常な爪

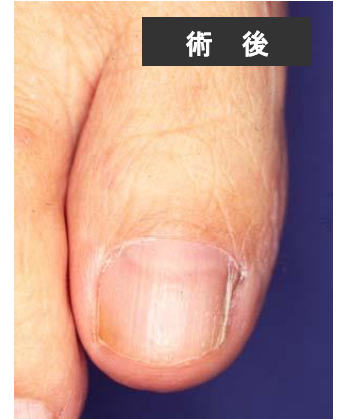


上から



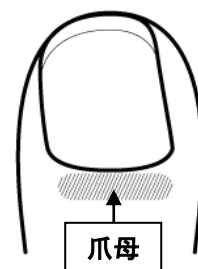
正面

陥入爪



手術時間：約5分

小手術



爪の部分切除
+
爪母の処置

実際の手術

〈準備〉

- ① 局所麻酔にて手術部位の感覚をなくします。
仰向けの状態で足趾(足の指)の付け根の2カ所に細い針にて麻酔液を注射します。この際、少々痛みを伴いますが、数分で感覚が低下し手術が可能となります。
- ② 手術部位の出血予防のため、足趾の付け根をゴムバンドで締めます。

〈術後〉

- ③ 手術直後に、爪母を処置した小さなポケットに、非常に小さな軟膏付き網ガーゼを入れます。
この網ガーゼは1週間入れたままです。
- ④ 止血のために包帯で軽く圧迫します。
出血することはほとんどありませんが、念のため、手術終了後30分間横になっていただきます。
看護師が30分後に出血の確認に伺います。
問題なければ帰宅していただけます。

- ・ 手術の翌日から、普段の生活に戻っていただけます。
- ・ 痛みを伴わないのが本手術の特徴ですが、長時間無理をして創部を降ろしていると痛みを生じることがあります。その際は、足を上げて休む必要があります。

手術後の処置

- ・ 手術後は、痛み止めを3回分のみ内服で出します(痛みが少ないため、服用される方はあまりいません)。また、抗生物質は必要ありません。
- ・ 手術翌日または翌々日に手術部位の確認のためにご来院いただきます。それまでは、包帯を取らないでください。

〈処置内容〉

- ・ 包帯・ガーゼをはずし、出血のないことを確認します。爪母に入れた小さな網ガーゼはそのままにしておきます。軽く消毒した後に、小ガーゼを当てて帰宅していただきます。
- ・ その後は、患者さまご自身で傷の処置をしていただけます。

ご自身での傷の処置

- ・ 自宅での処置は、1日1回で大丈夫です。
ただし、傷口が明らかに汚れた場合などは、その都度処置をおこなってください。
- ・ 消毒は、必要ありません。
- ・ 処置中に、爪母に詰めていた網ガーゼが取れても心配いりません。処置を続けてください。

〈処置方法〉

- ① ガーゼをはずした後に、シャワーなどの水または湯で傷口を軽く洗ってください。あまり熱い湯をかけると、痛くなることがあります(包帯が取れば、傷口を濡らしても大丈夫です)。
- ② ガーゼやタオルなどを軽く創部に押しあて、水分を除いてください。
- ③ バンドエイドまたは小ガーゼをあてます。

1週間後に病院で処置

手術の1週間後に、再び病院に来ていただきます。
網ガーゼの除去(既に取りれていても結構です)と爪母を処置したポケット内の掃除をおこないます。
その後は、お風呂に入っていただいても構いません。

病院への通院は以上で終了です。

- ※ 創部が完全に乾燥するまで2週間程度かかります。
- ※ 再発した場合、再手術をおこなうこともあります。
その際は、お手数ですが再受診をお願いします。